

令和5年度

主要な施策の成果に関する説明書

鳥栖・三養基西部環境施設組合

令和5年度主要な施策の成果に関する説明書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第5項の規定に基づく令和5年度決算に係る主要な施策とその成果について次のとおり報告する。

令和6年8月26日

鳥栖・三養基西部環境施設組合
管理者 岡 毅

目 次

1 決算の概要

(1) 総括	1
(2) 収支の状況	1
(3) 歳入の状況	1
(4) 歳出の状況	2

2 主要事業の成果

(1) ごみ処理	3
(2) 環境情報	6
(3) 啓発事業	6
(4) 溶融資源化センターの歩み	7

1 決算の概要

(1) 総括

歳入は、収入額 13 億 7,835 万 6 千円で、前年度から 2 億 3,798 万 5 千円 (14.7%) の減となっており、歳出も、支出額 12 億 8,005 万 5 千円で、前年度から 3 億 441 万 3 千円 (19.2%) の減となった。

歳入では、溶融資源化センターの稼働日数の減に伴う構成市町からの負担金の減と売渡価格の下落による有価資源物売払金の減少が見られた。また、施設整備基金の取り崩しに伴い 5,244 万 5 千円を繰り入れた。

歳出では、用役費および設備休止措置の減に伴う溶融施設運転管理業務委託料の減少、さらにリサイクルプラザ・プラントの光熱水費の減少が見られた。

(2) 収支の状況

歳入総額 13 億 7,835 万 6 千円から、歳出総額 12 億 8,005 万 5 千円を差し引いた歳入歳出差引額は 9,830 万 1 千円となり、実質収支額も同額となっている。

今年度実質収支額から前年度実質収支額 3,187 万 3 千円 (前年度決算剰余金) を差し引いた単年度収支は、6,642 万 8 千円の黒字となった。

(単位：千円)

	歳入総額	歳出総額	差引額	翌年度へ繰り越すべき財源	実質収支
令和 5 年度	1,378,356	1,280,055	98,301	0	98,301
令和 4 年度	1,616,341	1,584,468	31,873	0	31,873
増 減	▲237,985	▲304,413	66,428	0	66,428

(3) 歳入の状況

(単位：千円)

区 分	令和 5 年度		令和 4 年度		増減 (A)-(B) (C)	対前年度 増減率 (%) (C)/(B)
	決算額 (A)	構成比	決算額 (B)	構成比		
分担金及び負担金	999,329	72.6%	1,236,935	76.5%	▲237,606	▲19.2%
使用料及び手数料	187,751	13.6%	183,507	11.4%	4,244	2.3%
財産収入	421	0.0%	425	0.0%	▲4	▲0.9%
繰入金	52,446	3.8%	50,000	3.1%	2,446	4.9%
繰越金	31,873	2.3%	29,732	1.8%	2,141	7.2%
諸収入	106,536	7.7%	115,742	7.2%	▲9,206	▲8.0%
歳入合計	1,378,356	100.0%	1,616,341	100.0%	▲237,985	▲14.7%

・構成市町別負担金一覧

(単位：千円)

区 分		解体関連費	管理運営費	計
鳥栖市	令和5年度	55,168	611,749	666,917
	令和4年度	45,220	777,803	823,023
	増減	9,948	▲166,054	▲156,106
上峰町	令和5年度	9,395	101,661	111,056
	令和4年度	7,701	128,096	135,797
	増減	1,694	▲26,435	▲24,741
みやき町	令和5年度	20,837	200,519	221,356
	令和4年度	17,079	261,036	278,115
	増減	3,758	▲60,517	▲56,759
合 計	令和5年度	85,400	913,929	999,329
	令和4年度	70,000	1,166,935	1,236,935
	増減	15,400	▲253,006	▲237,606

・ごみ処理手数料

(単位：千円)

	鳥栖市	上峰町	みやき町	計
令和5年度	148,008	9,750	29,994	187,752
令和4年度	142,530	10,422	30,555	183,507
増 減	5,487	▲672	▲561	4,245

・資源化物の売払い額

(単位：千円)

	スラグ等	金属類	古紙類	PET ボトル	小型家電	びん類外	合 計
令和5年度	1,792	43,070	8,776	10,681	1,002	1,348	66,669
令和4年度	1,890	46,730	9,274	14,001	865	1,266	74,026
増 減	▲98	▲3,660	▲498	▲3,320	137	82	▲7,357

(4) 歳出の状況 (単位：千円)

区 分	令和5年度		平成4年度		増減 (A)-(B)	対前年度 増減率(%)
	決算額 (A)	構成比	決算額 (B)	構成比		
議会費	279	0.0%	281	0.0%	▲2	▲0.7%
総務費	176,164	13.8%	148,813	9.4%	27,351	18.4%
衛生費	1,103,612	86.2%	1,435,374	90.6%	▲331,762	▲23.1%
公債費	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
予備費	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
歳出合計	1,280,055	100.0%	1,584,468	100.0%	▲304,413	▲19.2%

2 主要事業の成果

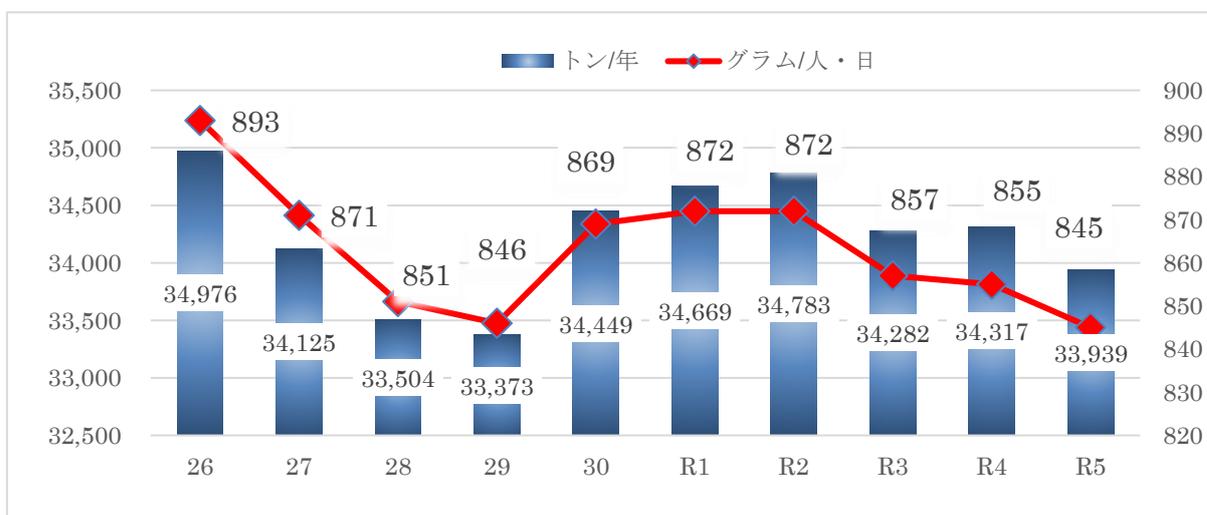
(1) ごみ処理

令和5年度の搬入ごみ量は、総計3万3,939トンで、前年度比較377トン（▲1.1%）の減少となった。種類別にみると、可燃ごみは288トン（▲1.0%）の減、粗大・不燃ごみは15トン（▲0.4%）の減、資源ごみは105トン（▲5.8%）の減となった。市町ごとの年間ごみ搬入量の割合は、鳥栖市72%、上峰町8%、みやき町20%で、1人が1日に出すごみの量は、鳥栖市が908グラム、上峰町が710グラム、みやき町が713グラムとなる。

・搬入ごみ量の増減（単位：トン、人）

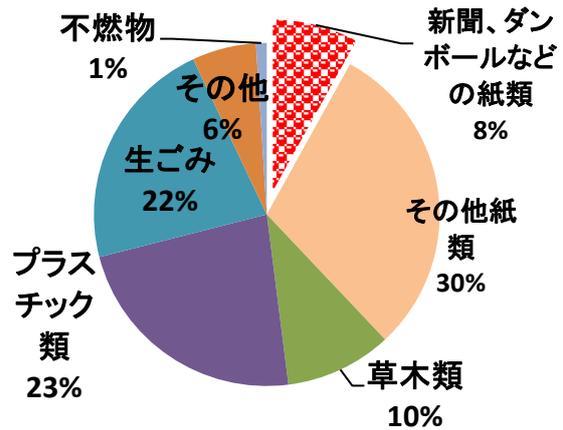
項目		可燃	粗大・不燃	資源	計	10.1人口
鳥 栖 市	令和5年度	21,339.23	2,153.92	1,205.04	24,698.19	74,515
	令和4年度	21,403.95	2,142.83	1,284.79	24,831.57	74,475
	増減	▲ 64.72	11.09	▲ 79.75	▲ 133.38	40
上 峰 町	令和5年度	1,981.57	413.19	148.39	2,543.15	9,819
	令和4年度	2,044.61	424.37	157.32	2,691.94	9,787
	増減	▲ 63.04	▲ 11.18	▲ 8.93	▲ 148.79	32
みやき町	令和5年度	5,153.16	1,203.95	341.01	6,698.12	25,733
	令和4年度	5,313.10	1,188.43	357.30	6,858.83	25,730
	増減	▲ 159.94	15.52	▲ 16.29	▲ 160.71	3
合計	令和5年度	28,473.96	3,771.06	1,694.44	33,939.46	110,067
	令和4年度	28,761.66	3,755.63	1,799.41	34,316.70	109,992
	増減	▲ 287.70	15.43	▲ 104.97	▲ 377.24	75

・搬入ごみ量の推移（単位：トン/年 グラム/人・人）



・可燃ごみの分類

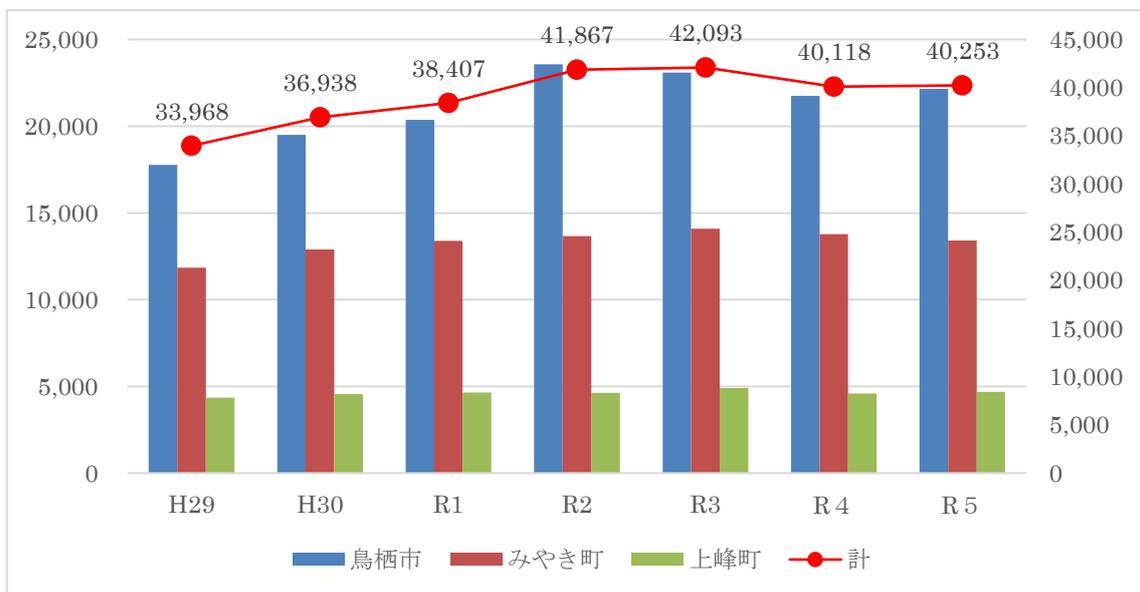
可燃ごみを分類すると、紙類が38%、プラスチック類23%、生ごみ22%、草木類10%であった。また、紙類のうち、資源化回収の対象となっている新聞、ダンボール類が8%含まれ、重量にすると2,300トン程度となる。



焼却処分の中には、まだまだ資源ごみが潜在していることから、更なる資源化分別を進める余地がある。

生ごみは、前年度からは横ばい傾向であるが、依然として可燃ごみ中の水分は40%以上を占めている。食品ロスの問題もあり、引き続き「使い切り」、「食べ切り」、「水切り」を推進していく必要がある。

・リサイクルプラザ直接搬入台数の推移（単位：台）



令和5年度は、年間40,253台（前年比135台増）で横ばいであったが、令和2年度以来年間40,000台を超えている状況である。

・ごみ処理の状況

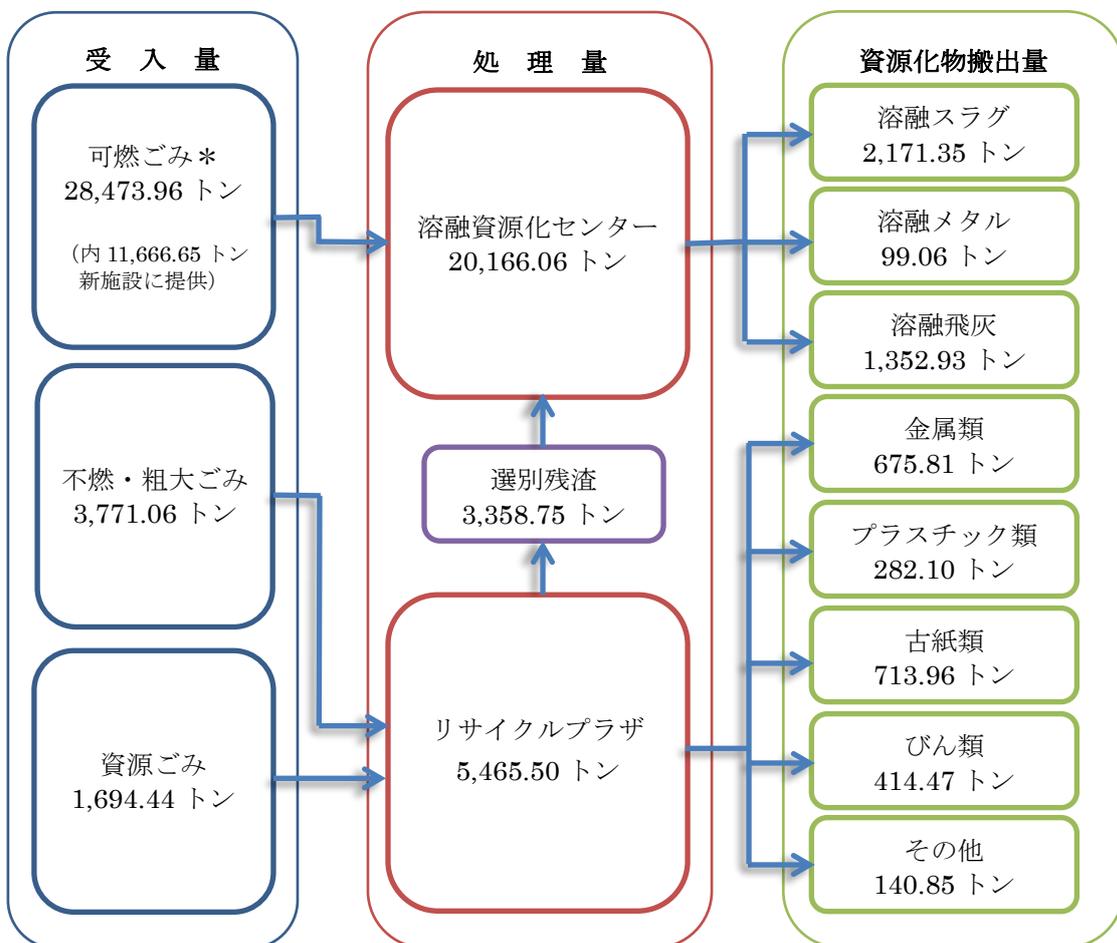
可燃ごみの処理（溶融資源化センター）

21,448 トンを溶融施設で溶融処理し、溶融スラグ 2,171 トン（10%）、溶融メタル 99 トン（0.5%）を資源化した。溶融飛灰 1,353 トン（6%）は資源化や埋立による処理を行った。

不燃・粗大ごみ、資源ごみの処理（リサイクルプラザ）

不燃・粗大ごみ 3,771 トン、資源ごみ 1,694 トンを選別処理し 2,227 トン（41%）を資源化物として搬出した。

・ごみ処理フロー



*可燃ごみのうち 11,666.65 トンは新施設試運転用ごみとして提供した。

設備休止措置の実施（溶融資源化センター）

可燃ごみ受け入れ終了日（11月14日）以降、ごみピット内の底ごみ処理や資材・薬剤の処分及び炉内の清掃委作業等の解体工事の事前措置を実施した。

(2) 環境情報

・排ガス測定結果

区 分	測定日		排出基準 (協定値)
	R5. 7. 21	R5. 9. 15	
ばいじん (g/m ³ N)	0.002	0.002	0.01
硫黄酸化物(ppm)	30	20	50
窒素酸化物(ppm)	18	15	100
塩化水素(ppm)	0.6	0.3	50
一酸化炭素(ppm)	7	15	30
ダイオキシン類(ng-TEQ/m ³)	0	0.00024	0.1
総水銀 (μg/m ³)	2.9	1.3	50

・周辺環境ダイオキシン類調査結果

区 分	測定結果	基準値	測定日
大気 (p g-TEQ/m ³)	0.0065、0.0053	0.6	R5. 11. 24~30
底質土壌 (p g-TEQ/g)	150	150	R5. 10. 17
一般土壌 (p g-TEQ/g)	2.2	1,000	R5. 10. 19
水質 (p g-TEQ/l)	0.47	1	R5. 10. 17

(3) 啓発事業

・リサイクルプラザ利用状況 (年間延べ利用者数)

視察研修	イベント参加	研修室借用	宿泊研修	エコライフ講座
557名	3,257名	180名	0名	0名

環境学習の一環で施設見学会に小学校6校(557名)が参加した。見学会では、施設の紹介と合わせて、Reduce(リデュース)、Reuse(リユース)、Recycle(リサイクル)の3つのRでゴミ減量化やリサイクル推進への啓発活動を行った。

環境イベントとして、毎月1日~12日の間に再生家具や再生自転車の展示販売を行う「もったいなか市」を開催し、多数の来場者(3,257名)があった。

また、ホテル時期のホテル公園でのホテル観賞、そして環境美化活動として実施した菊づくり教室の菊花展には多くの来場者があった。

(4) 溶融資源化センターの歩み

年 度		内 容
2004	平成 16 年	ガス化溶融炉稼働開始 (4/1～)
		溶融処理 24,569 トン、不具合による外部処理 8,975 トン
2005	平成 17 年	大規模改修工事(9月～10月)
		溶融処理 22,463 トン、改修工事による外部処理 7,502 トン
2006	平成 18 年	溶融処理 29,671 トン
2007	平成 19 年	溶融処理 29,750 トンうち外部受入(脊振) 53 トン、累計処理 10 万トン達成
2008	平成 20 年	溶融処理 30,642 トン、3/10 運転管理、維持管理に関する覚書締結
2009	平成 21 年	溶融処理 30,346 トン
2010	平成 22 年	溶融処理 31,556 トン
2011	平成 23 年	溶融処理 31,556 トン、累計処理 20 万トン達成
2012	平成 24 年	溶融処理 31,924 トン
2013	平成 25 年	溶融処理 32,860 トン
2014	平成 26 年	溶融処理 32,435 トン、2/22 ごみ装入装置火災事故発生
2015	平成 27 年	溶融処理 32,334 トン
2016	平成 28 年	溶融処理 32,412 トン
2017	平成 29 年	溶融処理 31,538 トン、累計処理 40 万トン達成
2018	平成 30 年	溶融処理 32,025 トン
2019	令和元年	溶融処理 33,484 トンうち災害受入 371 トン(武雄市、大町町)
2020	令和 2 年	溶融処理 32,698 トンうち災害受入 412 トン(熊本県芦北町)
2021	令和 3 年	溶融処理 32,167 トンうち災害受入 441 トン(長崎県大村市、大町町)
2022	令和 4 年	溶融処理 32,818 トン
2023	令和 5 年	溶融処理 21,448 トン、11/17 操業終了、累計処理 60 万 8 千トン

施設稼働（平成 16 年）からの年間 3 万トンの処理を行い述べ 60 万 8 千トンの可燃ごみを溶融処理した。（スラグ回収量 45,481 トン、メタル回収量 2,289 トン）



平成 15 年 11 月建設当時



令和 6 年 3 月感謝のライトアップ



20年間の稼働を終了し開催した閉所式（令和6年3月22日）

この施設のマスコット「イーくん」と「リーちゃん」は、ごみ袋をイメージしています。『ごみが減って、中身（体重）がどんどん軽くなり飛んでいけるように』という願いを込めて羽をつけました。この思いが今後もつながっていくことを願っています。長い間ありがとうございました。

